

令和8年3月1日

関係者様

世田谷区立下北沢小学校

校長 大字 弘一郎

令和7年度 次年度に向けた改善方策について

本年度の学校評価にご協力いただき、誠にありがとうございました。

児童・保護者・地域の皆様からいただいたご意見や数値結果を多面的に分析し、本校の成果と課題を整理いたしました。結果を真摯に受け止め、次年度の教育活動の一層の充実につなげてまいります。

【学校の重点目標について】

1 かかわり合う活動の充実による自分づくり

「自分のよさを実感している」と回答した児童は、
1年80%、2年65%、3年67%、4年67%、5年72%、6年70%でした。

高学年では7割を超え、学校全体として着実な向上が見られます。特に、縦割り活動や係活動において役割をもたせ、振り返りを丁寧に行ってきたことが自己肯定感の高まりにつながっていると考えています。

一方で、中学年を中心にまだ十分とは言えない学年もあり、自己の成長を実感する機会の質や量に課題があると捉えています。来年度は、縦割り活動や特別活動をさらに充実させるとともに、活動後の振り返りの工夫や教師からの肯定的なフィードバックを意識的に行い、すべての学年で8割以上を目指して取り組んでまいります。

2 学習内容がわかり、できると実感する力の育成

「考えたことを伝えることができる」と回答した児童は、
5年89%、6年87%と高い水準を維持しています。

低・中学年においても約7割が肯定的に回答しており、主体的・対話的な学びの定着が徐々に進んでいることがうかがえます。自分の考えをもつ時間の保障や、少人数での話し合い活動の工夫が成果として表れていると分析しています。

今後は、単に発表できることにとどまらず、根拠を明確にして説明する力や、友達の考えを受けて思考を深める力の育成を目指します。そのために、ICTの活用による思考過程の可視化や、学習の振り返りの充実を図り、「わかった」「できた」と実感できる授業づくりを一層推進してまいります。

3 進んで運動する子どもの育成

運動への意欲は全学年で7割台まで向上しており、一定の成果が見られます。体育授業における活動の工夫や、外遊びの奨励が効果を上げていると考えられます。

しかしながら、本校の目標としている8割には届いていないことから、運動への苦手意識をもつ児童への支援や、成功体験を積ませる指導の充実が今後の課題です。来年度は、体育授業のさらなる改善に加え、休み時間の外遊びの推奨、体力向上に向けた継続的な取組を通して、日常的に体を動かす習慣づくりを進めてまいります。

今後も、学校だよりやホームページ等を通して取組や成果を積極的に発信し、開かれた学校づくりを推進してまいります。引き続き、本校教育活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。